

# 花 無 心

第 260 号ダイジェスト版 2022 年 11 月 発行

ひきこもり家族自助会とやま大地の会(設立 2001 年 3 月)

振込先 北陸労働金庫 富山南支店 普通 3414428 とやま大地の会

## ♪ ♪ 例会のおしらせ ♪ ♪



例会は、ミニ講演やグループでの分かち合いの場です。また個別相談会(希望者)も行っています。新型コロナ対策のため、実施について変更可能性もありますので、ご参加を希望される方は、本会のホームページでの確認をお願いします。

11 月 26 日(第 4 土曜日) 第 261 回例会 9:30 富山市安住町サンシップとやま 601 号室

**11 月は従来の第 3 週の 13:30 からと違い、第 4 週土曜日の 26 日 9:30 から行います。**

12 月 10 日(第 2 土曜日) 第 262 回例会 13:30 富山市安住町サンシップとやま 701 号室

**12 月は従来の第 3 週の土曜日と違い、第 2 週に行います。**

01 月 21 日(第 3 土曜日) 第 263 回例会 13:30 富山市安住町サンシップとやま 601 号室

02 月 25 日(第 4 土曜日) 第 264 回例会 13:30 富山市安住町サンシップとやま 601 号室

\*\*\*\*\*

会費 正会員の 2021 年度からの年会費は 2,000 円。例会参加費無料。(振込料は各自負担です。)

非会員の方の、2021 年度からの例会参加費 200 円です。

サンシップでは駐車券を 2 階事務所にし、「大地の会」とおっしゃってください。無料になります。

サンフォルテでは駐車券を 1 階受付にし、「大地の会」とおっしゃってください。1 時間無料になります。

◎富山県ひきこもり地域支援センター、最寄りの厚生センター、保健所で相談をしましょう。適切な支援に繋がるよう力を借ります。

◎支援センターに希望すること、親に出来ることを常時募集しています。

◎ご相談があれば、大地の会のホームページからお問い合わせ下さい。

「とやま大地の会」のホームページですが、下記 URL で開設しています。ご覧ください。

<http://toyamadaichinokai.com/>

本会の各事業は、富山県、赤い羽根共同募金の助成を受けて実施しています



## ♪ 10 月例会報告 ♪

日 時: 10 月 15 (土) 13:30~16:00 サンシップとやま 601 号室

参加者: 29 名(男性 9 名{内体験者 2 名}、女性 20 名{内体験者 2 名})のご参加がありました。

例会が始まる前には、会員のハーモニカ演奏を、コロナ禍で声を出さず皆さんで“聴き”ました。曲は『花は咲く(本日の講師の佐々木さんへ)』・『里の秋』・『こきりこ(富山の民謡紹介)』でした。

### I 挨拶

コロナ禍の中で多くの方に参加していただき有難うございます。本日は、講演に岩手の佐々木さんにお話しをいただきます。ご講演のあと講師との質疑応答や、感想の分かち合いを致します。代表が都合で欠席されていますが、いつも通りに進めてまいりたいのでよろしくお願ひいたします。

### II ミニ講演

#### 『不登校・ひきこもりだった我が子の親として — 私の居場所作り』

講師 KHJ いわて石わりの会 代表 佐々木善仁さん<sup>よしひと</sup>

佐々木さんは、東日本大震災で、「津波よりも、避難所で人に会う方が怖い……」ひきこもりの次男と、助けようとした妻を亡くされました。「自分の意思で安心して逃げられるような社会のシステムが必要」と、居場所作りなどに取り組まれていらっしやるお話です。

## 《講話の概要》

### 富山に来て

今回は、富岩水上ラインに乗って富山を満喫した。富山は水が豊富、以前観光でトロッコ・黒四ダムなどに来たことがあり、薬も良く知っていた。次は路面電車にも乗ってみたい。

### 岩手県では

岩手県は北海道に次ぐ広い県、盛岡市で月一回の例会を開いている。陸前高田市は積雪が2～3cmと少なく岩手の湘南と言われている。

2011年3月11日に大震災があり、その20日後に小学校教員（校長）を定年退職した。2016年にKHJいわて石わりの会を立ち上げた。現在会員は13名。

### 次男について

次男が中2時、転校し不登校に。担任訪問に全く会わず。ただテニスが好きで、中学校のコートが空いた時に使わせてもらい、大会に親子で出場したが途中で放棄、それ以降、テニスはやらず部屋にこもる。父の私は、仕事で早朝出発、夜帰るのは10時過ぎ。しかし私は、俺の息子だから、いつか立ち直ると思っていました。他人からは、父の育て方が悪いと言われていました。息子の状態は妻を通して聞いていました。

次男は、通信制高校に進学、欠席は3年間で10日間位でした。しかし寮生活は先輩との2人部屋、喫煙する先輩から遠ざかるため、夜中自転車で200km先の父の所へ逃走したが、100km位でタイヤがパンク。また近所でボヤ事件があり、息子が警察で強く問い詰められた。原因が漏電だった。一戸建ての借家に移った後も次男はひきこもり、家の中で、鉄アレイや室内サイクリングで太らないようにし、犬を飼い散歩させていた。

### 妻は

妻は私と外出する時は、次男に必ず声をかけていました。妻は、子に、早く自立して欲しい・すぐ辞め、ても良いから職の体験をして欲しいと言ひ、私には真摯に息子と向き合って欲しいと言っていました。

### 私は

私は、何もしなくて良い・元気でいれば良い・貯金は次男にと考えていました。本人は心が休めていない・かわいそうにとの思いもありました。

### 妻子との約束

妻と生前約束したこと「親の会の継続運営と親と子の居場所づくり」を、息子へは、不登校・苦悩する若者への支援の約束を果たそうとしています。

ひきこもりの父母会の意義ですが、隣近所に相談出来ないことを受け止める場となっており、先輩の父母の方のお話は、大変参考になっています。子の気持ちを理解出来なくても共感出来ます。親にも支えが必要です。これからの課題は、支援体制・居場所づくり・地域連携などがあります。

自身が構想している居場所づくりですが、自分の土地に平屋で部屋は3つ位、調理場・風呂・防音施設完備、いつでも無料で利用出来、スタッフはボランティア（いくらかお手当）です。資金は、自身の退職金・妻の預貯金等を充てます。

### これから行いたい事は

居場所付近にホテルの育成（10年がかり）・ひきこもりの方と四国遍路に挑戦です。そして不登校・ひきこもる災害弱者を、災害からどう命を守るか。安心してひきこもれるところ、ひきこもっても安心して生きられる社会を目指していきたいと思っています。

災害時、人に逢いたくない本人を無理に引き出すのは、どうかと思っていましたが、南海トラフ近辺の高知の方から、3分以内に津波が来るという場面で、どう助けるかと質問があり、「人権を守る思いを受け止める・自分の命を尊ぶ思い、普段から俺って必要なんだな。」と分からせ、災害時 → 命が大事と自ら退避することと話しました。また、このためには普段からの本人への関わりが大事です。

そして、ひきこもらないように支援に明け暮れるのではなくて、安心してひきこもれるところ、ひきこもっていても安心して生きられる社会を目指していきたい。

### Ⅲ 講師との質疑応答・感想の分かち合い

- ・不登校もしていても今もずっとひきこもり。学校を離れてしまうと支援が遠くなる。様々なことで悩んでいる。親や若者たちが集える場所が欲しい。
- ・専門家、親とかではなく、本人たちの声、つぶやき（何に困っていて、何に生きづらさを思っているのか）を拾えるような場所を。と思っている。

→講師より

子どもは親に心配かけたくなくて親には言えないけど第三者には言えるかもしれない。  
震災で息子を失ってみて初めて生きていうちに親としての思いを伝えておくべきだったと思う。  
息子を理解できなくても今は共感できるかもしれない。子どもは子どもなりに親に申し訳ない気持ちがあるかも。

- ・70代と40代の親子。あと数年で80代と50代になる。資金はないが制度とか助成金を使って取り組んでいる活動があれば教えてほしい。

→講師より

各自治体に相談すれば居場所づくりへの支援もある。助成金もある。

- ・(当事者)地震の少ない富山だが避難所の問題を受け止めた。中学時代、学校は行けなかったが部活動は行けた。学校は行きたかったら行けばよい。ひきこもり時代から通信制に行った。他人と出会うのが嫌だった。

→講師より

震災をきっかけにガレキ撤去に参加してひきこもりから出られた人もいるし、これをきっかけに出ることができなくなった人もいる。

- ・ご家族を失っても頑張っておられることに感銘を受けた。災害からどう命を守るか、大切だと思った。
- ・居場所づくりフリーで安心していただける場所あるといい。人権、安心して自信をもっていずれ選べる。

→講師より

就労支援センターはあるが働いた後のフォローが大切。親が良かった！と思っても就労して自死してしまったケースもある。「辛くない？辞めてもいいんだよ。」と、見守っていく。

→講師より

繋がりたい当事者がいっぱいいるが、支援に繋がらない人がいる。親がいなくなると完全に孤立してしまっている。家族会さえハードルが高いという現実がある。こういう会を続けていくことが大切かな。毎回一人でも二人でも続けていく「継続することが大切」家族会に来るだけでも。

### Ⅳ その他

- 1 例会では、なかなか十分に自分の話が出来ない。言い足りないことなど日常のあゆみなど体験発表をしてみませんか？約20分間程度を予定しています。

#### 2 投稿欄について

会員の皆様から、“ひきこもりの理解”に関する本の紹介や講演の感想等、募集しています。

#### 富山県ひきこもり地域支援センター からのお知らせ

相談時間：月曜日～金曜日 8:30～12:00、13:00～17:00（要予約）

グループ相談を実施しています。

- ・本人グループ 毎週火曜日 10:00～12:00
- ・親グループ 毎月第2木曜日 14:00～16:00

まずはお電話でご相談ください。電話：076-428-0616

場所：富山県心の健康センター内 〒939-8222 富山市蜷川 459-1

## V 高岡つくしの会より（2003年設立）

市内2ヵ所で開催し、今はコロナ感染予防を徹底の上、主に話し合い中心の月例会と定例会を行っています。気候やコロナ関係などで、予定変更の場合もありますが、ご了承下さい。

### 11月の予定は

月例会 11月20日（日）13:00～ お弁当あり、事前連絡が必要です。  
場所 高岡市博労公民館

### おとぎの森定例会

11月9日（水）、11月26日（土）、23日は祝日のため休みます。  
14:00～16:00 高岡おとぎの森（ふれあい館 2階）

※ウィズコロナとまではいきませんが、予防に留意しながら、少しずつ活動を広げていけたらと、話合っています。

## VI 書籍他の紹介

『会報“なでしこ” 244号（10.10発行）と毎日新聞連載記事から』

なでしこの会（愛知県）の二つのご家族の取材記事から、田中理事長さんのインタビューの結び <同じ悩みを抱える親たちに伝えたいことがある> をご紹介します。

親は、我が子が外の世界に出られるか出られないかばかりに関心が行ってしまいがちです。支援施設に通えるようになったとか、アルバイトに行けるようになったとか。それも大事ですが、でも全てではありません。娘の場合、「居場所」には行けていませんが、家事はどんどんやってくれるようになったし、外出も出来る。確かにつらい毎日ですが、その中にも楽しみがないと生きている意味がないじゃないですか。ひきこもりから脱することを夢見て、その先のことばかりに思いをはせるのではなく、まずは毎日の生活を大事にすることを考えないといけないと思うのです。

※ 心に残る一文でした。会報を手にとされる皆さまと共有したいと思います。（やまおか）

